



# 家庭教育支援者研修会

日時:令和2年11月28日(土) 10:00~15:30  
場所:郡山市労働福祉会館 中ホール 参加者:29名

## 活動紹介1 「子どもも大人も安心して暮らせる街づくり」 10:15~11:00

特定非営利活動法人ぴいかあぶう理事長 吉田一也 氏

- 郡山市で放課後等デイサービスや児童発達支援事業、保育所等訪問事業を展開しています。またサッカーや体操等の体験教室を実践しています。
- 幼児から高校生まで、ライフステージに合わせて切れ目なく自分に身近な地域で安心して過ごせる放課後の居場所として施設を運営しています。
- 障がいのある児童が学校教育と相まって自立を促したり、日常生活に必要な基礎動作の指導や集団への適応訓練を提供したりしています。
- 放課後デイサービスや体験教室では、障がいの有り無しに関わらず同じ仲間として一緒に活動し、できることを増やしながらか自己肯定感を高めています。活動を通して、自然と障がいへの理解がつながることを期待しています。
- 事業に関わるスタッフは、スタッフである前に地域住民、親であることをふまえ、子育てと両立ができるよう働き方へも配慮しています。働くスタッフにもメリットがあり、子どもも大人も安心して暮らせる街づくりをめざしています。



ぴいかあぶう理事長 吉田一也 氏

## 活動紹介2 「はじめの一步から11年目を迎えて」 11:15~12:00

喜多方市家庭教育支援チーム“もも”代表 幸田 久美子 氏

- 喜多方市家庭教育支援チーム“もも”は、前身の平成20年からの文部科学省の委託事業が終了したのを機に3人で活動をはじめ、平成22年には社会教育認定団体となりました。
- 「もも」の主な事業は、喜多方市中央公民館と連携した「家庭教育講座」や「子育て何でも相談」、子育て世代の母親と交流する「ももクラブ」などがあります。
- 就学時健康診断での子育て講座では、不審者対策、SNSの問題点、正しい睡眠の取り方などを話しています。
- 以前は地域で育成会などの行事がありましたが、今は減少しています。また、保護者も大変忙しくしています。だからこそ、積極的に話を聞いてもらえる場をつくり、子育ての悩みを少しでも解消できる活動を続けています。
- 文部科学大臣表彰を受けてから、市内でも活動を取り上げられることが多くなりました。これからも少ない人数でも、地域の家庭教育のために地道に活動を続けていきます。



もも代表 幸田 久美子 氏

## 講演・演習「家族の変化と地域の家庭教育支援」 13:00～15:20

郡山女子短期大学地域創成学科教授 知野 愛 氏

### 1 家族の変化

- 晩婚化【初婚年齢女性29.4歳（平成27年）】と晩産化【第一子出産平均年齢30.7歳】が進んでいるとともに、現在の合計特殊出生率は1.46と低い数値を示しています。
- 共働き世代が増加しているとともに、ひとり親世帯も増加しています。ひとり親世帯は同年代の親と話す機会が少なく、孤立しやすい状況にあります。



郡山女子短期大学 知野 愛 氏

### 2 地域で支える家庭教育支援

- 家庭教育学級は1950年頃から、文部科学省により取り組まれてきました。それまでは、親は自分が育てられた環境を思い出したり、知識や周囲を見たりして何気なく家庭教育のしかたを学んできました。また、育児書から手に入れた情報や友人、先輩から知識を得ることもありました。
- 現在の子育て中の親は、自分が社会から隔絶されて、孤立しているように感じています。4人に1人は子育ての悩みを相談できる人がいません。また、4割の人は困ったときに子どもを預けられる人がいない状況にあります。
- 自然体験や地域活動が多いほど子どもの意欲関心、規範意識は高くなります。地域行事やボランティア活動に積極的に参加できる環境があると健やかな子育てにつながっていきます。
- カナダには、Nobody's Perfect という親教育支援プログラムがあります。「誰でもはじめから完璧な親なんていない」という考えのもと、同世代の子育て中の仲間と話し合いながら自分に合った子育てのしかたを身につける講座があります。
- 郡山女子短大の学生18歳から19歳の世代にアンケートをとると、65.8%が県内に住み続けたいと思っています。「生まれ育った場所だから」「就職口がありそうだ」等の理由が多いです。今後は「県内で家庭を築いて幸せに暮らしたい」「子育てがしやすい環境だから暮らしたい」と思えるような環境作りが必要となるでしょう。
- 家庭教育を地域で支える必要がある。「誰でもはじめから完璧な親なんていない」という考えを大切に、気軽に話せる場づくりや家庭教育を支援する人材育成が大切になると考えます。

### 3 グループ協議

「地域社会全体があたたかく子どもの成長を見守っているという雰囲気醸成するためには、どのような方策が考えられるか」

- グループ協議のまとめとして
  - ・ 「場づくり」「人との関わり」「きっかけ」がキーワードになっています。地域の中で、悩みを相談できる場をつくっていくことは大切だと思います。
  - ・ 地域を挙げて子どもの誕生を祝い、地域で子どもの命と成長を守っていくフィンランドの実践を紹介した。「あなた（親）の子でなく、私達（地域）の子」と捉え、地域をあげて親との信頼関係を築いて親の子育てを支え、子どもの誕生や成長を歓迎するような地域社会を目指していきたいです。



グループ協議の様子から

